

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2592400028
法人名	社会福祉法人 近江薫風会
事業所名	スマイルグループホーム
訪問調査日	平成 19 年 5 月 18 日
評価確定日	平成 19 年 6 月 13 日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2592400028
法人名	社会福祉法人 近江薫風会
事業所名	スマイルグループホーム
所在地	滋賀県米原市寺倉603番地の3 (電話) 0749-54-8213

評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成19年5月18日	評価確定日	6月13日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 9 月 9 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤	4 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 1 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り1階建て 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	75,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1月当たり		45,000円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊藤内科医院、山根歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・周囲は、田、山に囲まれた田園地帯で、周りの自然環境も良い寺倉地区に「地域の人々に愛され安心かつ信頼される」ことを基本理念として設立された新進の施設である。 ・施設内は全居室とも掃きだし窓で、床はフロアマットタイプ、バリアフリーが施され、各部屋に火災報知機設置、携帯電話を用いた見守りシステム(警備システム)を開発、導入している。 ・周到な面接を行い、本人や家族の意向を尊重し、利用者の人権や尊厳を守り、周囲の状況などの把握に努めている。利用者との会話も和気あいあいの雰囲気が見られ、支援活動に生かされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	最初の外部評価受審の為、前回との比較は出来ない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	・素晴らしい施設を作るという強い思いを基に、100項目を全員に回覧、記入後全職員で話し合いを行う方法で自己評価を実施、サービスの質の向上に共通理解を図り、今後の改善に向けての検討や実践に生かす努力をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	・運営推進会議は開所以来2回開催された。その内容の中で米原市健康福祉部高齢福祉課から、地域に開かれた施設としてよりよいサービスを提供できるための意見が出され、検討されている。また事業所の考え方、運営や現場の実情等を説明し、直面している色々な問題解決に向け、関係者の協力を得て共に取組むことを確認している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	・電話や家族の面会時等日常的に情報交換が行われており、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。苦情処理は、窓口を施設と公的機関に設けているが、開所以来、苦情、相談はない。今後、問題が発生した時には対応で終わるのではなくその発生要因を探り、課題を検討し、質の向上を目指す取組みをして欲しい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	・ホームの宿直者3名は地元の寺倉地区の人で、その地域の子供会を招待したり、地域で開催される行事等に利用者と共に参加している。また西円寺地域老人会には施設をサロンの場として開放し、地域の人々と積極的に交流を行い地域に溶け込もうという努力、姿勢が伺われる。今後更に地域へ浸透する姿勢での取組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理事長を始めとして、全職員が地域に愛される素晴らしい施設にしようという思いが込められた地域密着にふさわしい理念が作りあげられている。		・理念をモットーに。地域に浸透するよう活動を積み上げていって欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念の共有化と理念の実践化に向けて、職員会議やテストなどを実施して日常的に周知徹底を図っている。		・今後は更なる職員のスキル、チームケアの向上をはかり、理念の実践とレベルアップを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・近辺の寺倉地区の子ども会を招待したり、西円寺地区の老人会に施設をサロンの場として提供している。今後は近辺の河南中の体験福祉学習の受入れ等も予定し、日々努力の姿が見られる。・ホームの宿直補助担当員にシルバー人材センターから3名の受入れを行い、関係作りの核になるよう努められている。		・法人の理事の居住地区の鯉のぼりイベントへの参加が予定されているなど、ますます地域との関係が深まる事を期待したい。また併設のデイサービスセンターとの連携強化をはかり地域との交流拡大が進められるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・3月に開設して初めて全員参画で自己評価を実施し、改善に取組み中である。5月には、初めて外部評価を受け、それらを今後一層改善に繋がるよう取組みが話し合われている。		・自己評価に外部評価を加えて具体的改善に繋げ、更なるサービスの質的向上をはかることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議が設置され、メンバーが決定し、定期開催が始動した段階である。 ・ホーム側は、運営推進会議の事務局として施設長・グループホーム所長・グループホーム主任(管理者)が常任メンバーとなっている。	○	・今後は、運営推進会議の内容を充実し、活発な取組みを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・施設長が湖北介護サービス事業者協議会の役員に就き、市振興局などに頻繁に出入りして、行政との連携が密に取組まれている。また米原市の要請に応じて「介護者家族の集い」の受入れを予定している。		・更に地域福祉の向上に取組みが進められることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・利用者の暮らしぶりや健康状態などの家族への連絡・報告は、日常的に電話や家族の面会時に適切に行われている。また月一回のホーム便りにはホーム全体と個人の様子が送付されている。		・今後も家族とのコミュニケーションの保持に努力して欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情等に関するホーム側窓口や第三機関窓口を明示し努力されている。 ・長浜・米原・東浅井介護相談員の受入も月1回の頻度で実施することとし、外部者に苦情や不満を表せる機会を設け、運営に反映できるようにしている。 ・家族会については、目下検討中である。	○	・運営推進会議で家族代表から積極的に意見を引き出す工夫やホームが企画中の「家族会の設立」の具体化への取組みの推進を期待する。 ・利用者家族等との馴染みが深くなると逆に苦情や意見を言えないというジレンマに陥るということもあるので今後も謙虚な姿勢を堅持して欲しい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・併設のデイサービスセンターと当ホーム間で職員の交換勤務が組み込まれて、利用者との馴染みの関係づくりが行われ、職員の異動等によるダメージ防止に取り組まれている。		・今後も丁寧な対応を期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設長は人材育成に熱心であり「チャレンジシート」を導入し、スキルの向上や働き甲斐の高揚に取組まれている。 ・新卒職員には4ヶ月にわたって、長浜市社協・鈴木ケア・プラチナサークルの3箇所のデイサービスセンターで実践研修を実施されている。 ・理事長による座学研修も実施されて		・今後、長期的観点から研修体系の確立や個人別の育成計画を策定して、着実な育成をはかって欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設長が湖北介護サービス事業者協議会の監事であり、所長および管理者は部会活動等に参加し、情報収集や意見交換を行っている。また、同地域の事業者間で管理者や職員の体験学習、交流も行われている。		・今後も活発な活動を通じて事業所や職員の相互研鑽の実を挙げ、サービスの質の向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者の状況、希望に合わせた体験入居や併設のデイサービスセンターの利用から入居を勧める等の取組みが、家族等と相談して行われている。		・これからも丁寧な取組みを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、料理や洗濯、畑仕事など日常生活の中で利用者の出来ることを見つけ出し、支援している。また利用者から裁縫や料理など職員が教えてもらう関係も築かれている。		・利用者と職員が互いに助け合う関係が出来ている。この関係を発展させ、更に強力な信頼関係を築くことを期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・信頼関係を築くと共に、日常の会話や入浴などリラックスしている時などから本人の思いを読み取り、ケアプランに反映している。		・今後も、本人の思いや気持ちを大切にしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人の生活歴や居宅介護の経過等を聞き取り、本人、家族と相談してケアプランが作成されている。また入居後も介護記録や健康管理表などを用い、職員会議の場を通じてチームケアに取り組まれている。		・利用者は、加齢と共に状況変化が起きてくることから一層のチームケアの発揮を期待したい。
		○現状に即した介護計画の見直し	・各日に記入される個別の健康管理表をスタッフ、管		・情報の確実な共有化のために書類や帳票などには、

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	理者が回覧し、状況変化情報を共有している。月1回は計画作成担当者、管理者、スタッフにてモニタリングを行い、状況変化に対応し、月に1回カンファレンス、3ヶ月に1回は介護計画の見直しを行っている。		記入者、閲覧者印(サイン)、閲覧日付けなどを記入するルールを確立して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・併設のデイサービスにも自由に行き来が出来、連携支援が図れる体制を作っている。その中で共に、行事、散歩、買い物等を行い、大勢の人達と交流を図っている。		・地域住民を巻き込んだ発信的な交流を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・当事業所の協力医の往診や以前からのかかりつけ医には家族同行で受診、利用者・家族と共に診断結果を共有し、安心できる体制を作っている。		・各医師と当事業所との間で各利用者の情報交流を図り健康管理体制を密にし、更に強力な関係を作る努力を期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・昨年9月に開所、開所して間もないこともあり、終末に向けてのつっ込んだ話し合いは行なわれてない。従って事業所としての基本的な考えは固まっていない。終末に向けての本人の意向、家族の思いを家族等で話している。	○	・本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか事業所が対応できる最大の支援方法等を踏まえ、重度化、終末期のあり方についての基本方針を定めてもらいたい。また、家族、医師、看護師などを交え話し合いを行い、本人、家族の気持や思いに注意を払いながら、全員でそのことを共有し、利用者の支援活動に生かすことを期待したい
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者・家族の意向等を聞き、利用者が呼んでほしい名前で呼んでいる。また大きな声でゆっくりとした言葉で丁寧に話しかけていた。そこには尊厳を守る姿勢がうかがわれた。 ・記録等の個人情報の管理状況は良好である。 ・施錠は内側からしか出来ないような作りとなっている		・担当者会議や職員会議でプライバシー保護や個人情報保護法についての研修会がもたれている。今後とも事例など入れながらより深みのある研修会になることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日の利用者の状況、様子を見て、また意見を取り入れながら一日の流れを一緒に作っている。		・現状を維持しながら、更に深めた個人支援へとつなげることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・入居時や日常の会話などにおいて利用者の料理の得意分野を聞き取り、把握に努めている。朝、おやつ、夕食の準備、調理、片付けを一緒に行っている。時には周りの藪から竹の子採り等を行い、季節感を味わっている。食事は職員も同じ物を食し、味付け・硬さ等吟味しながら、楽しく食事をしている。		・昼食は地元の業者より取り入れることにより、その準備時間等を利用者との触れ合いの時間に使用したいとの強い思いがあり、その時間を園内の耕作地での野菜づくり・外出・レクリエーションなどに使用している。当施設の創意工夫により昼食も時々施設で作ることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・毎日の入浴については、必ず声をかけ、本人の希望やその日の体調に応じて実施している。		・現在の入浴支援体制の継続を望む。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・併設しているデイサービスと打ち合わせ等を行い、一緒に地域の行事への参加や外出等を行っている。また、利用者の希望を出来るだけ取り入れ計画を立てている。 ・園内の耕作地の苗植えや取り入れ等の役を決め、責任を全うする喜びや収穫の喜びなどを味わう支援を行っている。		・家庭における日常生活の継続が出来るよう、更なる支援を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日には出来るだけ近くの観光地などに散歩・ドライブに出かけている。近くのコンビニへ買い物に出かけたり、食事のための買い物をして業務用スーパーに行くなど支援を行っている。		・関係者の意見などを参考しながら利用者の喜ぶ支援を望む。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は玄関に鍵を掛けていない、建物の外からの施錠は一切設けていない。見守り支援が行われている。利用者の日々の暮らしの安全を守るために携帯電話を用いた見守りシステムを開発、導入し、夜間に徘徊等で施設外に出た場合、軒下とフェンスに設置したセンサーが感知し携帯電話に通報し、安全確保		・この状態での見守り支援の継続を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署等の協力を得て、避難訓練、経路の確認、救急救命、消火器、ADEの講習等を行い。各室のバリアフリー化、火災センサー設置、緊急時には米原市消防本部、警備会社と連携、対応が図れている。夜間は2名体制(職員、米原シルバー人材センター職員)と機械システムを併せて運用している。		・警備体制等に維持経費がかかると思うが、現状維持されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者を24時間見守り、気づいたことを健康記録表に担当者が記入し、利用者の一日に摂取した水分量、体温、血圧、排便、入浴状況等を記入し、健康管理支援を行っている。また、管理栄養士が献立した献立表に従って提供される食事内容は栄養バランスも考えられている。		健康記録表を基に家族との連携・信頼関係を強化することを望む。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設中央に居間・食堂を配置し、各人が作った作品(パッチワーク、絵画)その他、記録等が展示されていた。各室は個別空調設備を備え、いつも太陽光が入り明るく、また、外周りは自然環境に恵まれ静寂である。またホーム内前には施設の人達で耕している耕作地があり、季節の花や野菜が植えられており、いつも季節感や生活感が感じられる。		・ホーム前の耕作地は、作る喜びや育てる喜びを利用者に与えるだけでなく、心の治療の1つとして大事に育てることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・今までの生活で使ってこられたものや馴染みのあるものの持ち込みは、本人の希望があれば可能である。		・馴染みのもの等の持込は今後とも容認の姿勢は継続して欲しい。